

41

中神琴溪の子孫について

黒川 達郎

古訓堂黒川クリニック

中神琴溪は寛保四年(1744)近江国栗太郡南山田村の真宗西念寺の二男として生まれた。幼い頃膳所の糺屋某の養子になったが、のち大津の医家中神氏の家を継いで医師となった。

琴溪は独学によって古方派の医学を修め、疾医の道に徹してよく大医の域に達した特異な名医であり、「外科の華岡瑞賢、内科の中神琴溪の右にでるものなし」とまで言われた。琴溪が門人に教えた第一の点は「事実を尚び、実学を学べ」ということであったが、この考えは現代の漢方医学にも影響を及ぼしている。

その子孫は現在も滋賀県草津市に医家として続いているが、平成25年に中神本家九代目当主の中神良彦氏が急逝し、十代目中神由香子氏に代替わりした。発表者は中神良彦氏と友人であり、良彦氏の実兄源一氏とも親しくして頂いている関係で、これを機に中神琴溪の子孫について知識を整理し、紹介したいと考えている。

初代 中神琴溪：草津市南山田町に生まれる。40歳頃から医学を学び大津で開業。48歳のとき京都四条にて開業。60代後半から田村新田に隠居して居住した。琴溪は天皇の診察を行い、往診の際は大名の行列を追い越すことが許されていたという。天保4年(1833)87歳没。

二代 中神均(安芸良平)：中神家の養子に入り、京都の医院を琴溪から託された。

三代 中神右近：その後長男右近が生まれ、父琴溪の身の周りの世話をしている。天保4年(1833)30歳没。

四代 中神良平：右近の急死により、南山田町の庄屋の二男(木戸)良平が田畑とともに中神家を継いだ。明治15年(1882)53歳没。

五代 中神良蔵：良平の長男良蔵は医者ながら東京へ家出。大正十年失踪宣告により、二男良策が継ぐ。

六代 中神良策：良蔵の弟、良策が中神家を継ぐ。大正時代、山田村村長として活躍した聡明な財をなした人。(長男の家出に懲りて、医師にさせなかったともいわれる)昭和5年(1931)66歳没。

七代 中神源作：良策に男子なく長女まさに養子として、神職を兼ねた刀鍛冶、大津市の松田家から迎える。京都府立医科専門学校を卒業。草津市草津2丁目が開業。南山田町本宅の古文書の中に宝蔵院の墓地の地権書を発見するなど、琴溪の顕彰に尽力し、百回忌法要を昭和9年に行う。昭和13年(1938)59歳没。

八代 中神右内：軍医として出征するも、無事帰還し、草津2丁目の医院を継承。当時二男良太、三男源造と共に草津市内で中神三兄弟として診療にあたった。平成3年没。

九代 中神良彦：中神良太(右内の弟)の二男。本家(右内)の後継ぎとして、昭和46年、入籍。近畿大学医学部卒。九代目当主となる。平成25年12月58歳で急逝。

十代 中神由香子：中神良彦に請われ、医学部卒業を待って、中神良彦の養子となる。中神良彦の急逝により、平成25年、中神本家を継ぐ。中神源一氏次女。

中神琴溪の子孫は幾度か養子をとっているものの、医家として現在も続いている。また琴溪の書物、肖像画、書跡などの遺物も中神家に良好な状態で保存されている。これは当然のことではなく、子孫の中に琴溪のことを十分に理解して顕彰活動に努力した人がいたせいである。

著名な医家でも医家としては途絶えることもあり、また子孫そのものがないときには、墓が無縁仏になり、墓の存在が危うくなることもある。

今後も、中神家が医家として存続するためには、子孫の努力だけではなく、周囲の理解と協力も重要であると考えられる。